

2021年 結核登録者情報調査年報集計結果について

当該年報は、2021年1月1日から同年12月31日の間に、新たに登録された結核患者及び潜在性結核感染症(LTBI)の者と、2021年12月31日現在に登録されているすべての登録者に関する状況について、感染症サーベイランスシステム(NESID)上の結核登録者情報システムに全国の保健所から入力されたものを、「結核登録者情報調査年報」として取りまとめたものである。

～表ごとの解説～

【表1 諸外国と日本の結核罹患率について】

2021年の結核罹患率(人口10万対)は9.2であり、前年と比べ0.9減少し、結核低まん延国となった。

日本の結核罹患率は、米国等他の先進国の水準に年々近づき、近隣アジア諸国に比べても低い水準にある。

2021年の結核罹患率の減少については、新型コロナウイルス感染症の影響も考えられる。

【表2 結核罹患率の都道府県別おもな順位について】

都道府県別の結核罹患率(人口10万対)は、長崎県、大阪府、徳島県、沖縄県、愛知県の順に高く、山梨県、秋田県、岩手県、長野県、福島県の順に低くなっている。長崎県の結核罹患率は13.5であり、最も低い山梨県の結核罹患率4.3の3.1倍となっている。

【表3 結核の死亡数及び死亡率の年次推移について】

2021年の結核による死亡数は1,844人(概数)で、前年の1,909人に比べ65人減少している。死亡率(人口10万対)は1.5で前年と同じである。

【表4 新登録結核患者数及び罹患率の年次推移について】

(1) 2021年に、新たに結核患者として登録された者の数(新登録結核患者数)は11,519人で、前年より1,220人(9.6%)減少している。減少率を見ると、2020年の前年からの減少率は11.9%(14,460人→12,739人)の大幅な減少であったが、2021年の減少幅は2.3ポイントの縮小となっている。(表4-1)

(2) 2021年の結核罹患率(人口10万対)は9.2であり、前年の10.1

より0.9(8.9%)減少し、結核低まん延の水準である罹患率10.0以下となっている。減少率を見ると、2020年の前年からの減少率は12.2%であることから、減少幅は3.3ポイントの縮小となっている。(表4-1、図1)

(3) 喀痰塗抹陽性肺結核の患者数は4,127人で、前年より488人(10.6%)減少している。(表4-2)

(4) 喀痰塗抹陽性肺結核の罹患率(人口10万対)は3.3であり、前年の3.7より0.4減少している。喀痰塗抹陽性肺結核の患者が全体に占める割合は35.8%で、前年から0.4ポイントの減少となっている。(表4-2)

【表5 年次別・年齢階級別 新登録結核患者数および潜在性結核感染症新登録者数について】

(1) 年齢階級別の新登録結核患者数では、0~14歳の小児結核は29人で前年から23人(44.2%)の減少となっている。15歳~19歳で23人(30.7%)の増加がみられたが、その他は全ての年齢階級で新登録結核患者数は減少となっている。20歳以上で減少数が最も大きかったのは70~79歳で306人(12.0%)の減少となっている。各年齢階級別で全体に占める割合は、80~89歳が29.9%と最も大きくなっている。90歳以上でも割合は14.2%となっており増加傾向は続いている。(表5-1)

(2) 年齢階級別の喀痰塗抹陽性肺結核新登録患者数では、0~14歳の小児結核の発生は2人となっている。15歳~19歳で15人(75.0%)の増加がみられたが、その他は全ての年齢階級で喀痰塗抹陽性肺結核新登録患者数は同数または減少となっている。20歳以上で減少数が最も大きかったのは70~79歳で131人(14.2%)の減少となっている。各年齢階級別で全体に占める割合は、80~89歳が33.3%と最も大きくなっている。
(表5-2)

(3) 2021年に登録された小児結核患者(14歳以下)のうち、重症結核例である粟粒結核及び結核性髄膜炎患者数は、粟粒結核の0歳の患者が1人となっている。(表5-3)

(4) 2021年に新たに登録された潜在性結核感染症の者の数は5,140

人で、前年より435人(7.8%)の減少となっている。年齢階級では、69歳以下の階級では登録数は減少、70歳以上では増加となっている。減少数は60～69歳の159人(17.5%)が最も多く、一方、増加は70～79歳の79人(7.6%)が最も多くなっている。(表5-4)

- (5) 新登録結核患者数に対する潜在性結核感染症新登録者数の比は、14歳以下の年齢階級では2.8以上となっており、潜在性結核感染症新登録患者数の方が多くなっている。特に0～4歳は20.1となっている。また、15歳以上の年齢階級は全て1を下回っており潜在性結核感染症新登録患者数の方が少なくなっている。

(表5-5)

- (6) 職業別では、2021年の潜在性結核感染症新登録者数における医療職(看護師・保健師、医師、その他の医療職)の数の割合は19.6%で、前年の19.4%から0.2ポイントの増加となっている。一方、無職・その他の割合が、前年の38.5%から41.7%に増加となっている。乳幼児、保育園・幼稚園児、小中学生、高校生以上の生徒学生の割合は9.1%で、前年の12.2%から3.1ポイントの減少となっている。(表5-6)

- (7) 外国生まれ新登録結核患者数は、前年から98人減少して1,313人となっている。しかし、新登録結核患者における外国生まれの者の割合は11.4%と前年の11.1%から0.3ポイントの増加となっており、増加傾向が続いている。20～29歳では外国生まれ新登録結核患者数は前年に比べて57人の減少で675人となっているが、同年齢階級での新登録結核患者における外国生まれの者の割合は72.6%と前年から1.3ポイントの増加となっている。30～39歳では外国生まれ新登録結核患者数は54人減少して276人となり、外国生まれの者の割合も前年の48.1%から46.2%と1.9ポイント減少している。(表5-7)

- (8) 外国生まれ新登録結核患者のうち、入国5年以内の者は、前年の669人から101人減少し568人となっている。特に20～29歳の年齢階級では、前年から74人減少して384人となっている。

(表5-8)

- (9) 日本生まれ新登録結核患者数は、前年の11,080人から1,271人減少して9,809人となっている。年齢階級別では80～89歳の患者数が最も多く3,274人で日本生まれ新登録結核患者の33.4%となっている。15歳～19歳で22人の増加がみられたが、その他は全ての年齢階級で患者数は減少となっている。減少数が最も大きかったのは70～79歳で337人の減少となっている。90歳以上も2020年に続いて減少となり、2021年は130人減少して1,566人となってい

る。(表5-9)

【表6 年次別・年齢階級別 結核罹患率について】

- (1) 年齢階級別の結核罹患率は、70歳以上の高齢層で高くなっている。60～69歳の罹患率は7.0で全年齢の罹患率より低い。70～79歳で13.7、80～89歳で36.5、90歳以上では64.6となっている。全体としては年齢階級別罹患率の年次推移は減少傾向となっている。(表6-1)
- (2) 菌喀痰塗抹陽性肺結核の罹患率も、同様に、高齢層ほど高くなっている。70歳代までは10未満だが、80～89歳で14.6、90歳以上では27.7となっている。(表6-2)
- (3) 新登録結核患者のうち、日本生まれの患者の結核罹患率は、前年から1.0減少の8.0となっている。外国生まれ結核患者の影響が除かれた20～29歳の罹患率は2.1、30～39歳で2.3となっており、全体の罹患率からは低くなっている。(表6-3)

【表7 新登録結核患者数及び結核罹患率 都道府県別・年次推移について】

- (1) 都道府県別の新登録結核患者数は、47都道府県のうち7の県(宮城県、富山県、鳥取県、岡山県、福岡県、長崎県、大分県)で増加している。新登録結核患者数が最も多いのは東京都の1,429人で、次いで大阪府の1,171人となっている。(表7-1)
- (2) 都道府県別の結核罹患率は、47都道府県のうち7の県(宮城県、富山県、鳥取県、岡山県、福岡県、長崎県、大分県)で前年から増加している。一方、結核低まん延の水準である罹患率が10.0以下の都道府県数は、35に達している。最も低い山梨県の罹患率は4.3となっている。(表7-2)

【表8 年末時結核登録者数及び有病率の年次推移について】

2021年末現在の結核登録者数は27,754人と、前年の31,551人より3,797人減少している。そのうち、活動性全結核の患者数は7,744人と、前年より896人減少している。また、2021年末の結核有病率は、前年の6.8から0.6減少し、6.2となっている。(表8)

【表9～表15 新登録結核患者の疫学的特徴について】

<再治療者>

2021年新登録結核患者のうちの再治療者は、前年の546人から86人減少して460人となっている。このうち、前回治療年が2010年～2019年の者は195人、2020年以降の者は84人となっている。前回治療年が2010年以降の者は再治療者のうち60.7%となっている。(表9)

<発見の遅れ>

(ア) 2021年の新登録肺結核患者のうち有症状の者の中で、受診が遅れた(症状発現から受診までの期間が2か月以上)患者の割合は、前年から1.7ポイント増加して20.8%となっている。このうち30～59歳の有症状菌喀痰塗抹陽性肺結核患者に限定すると、受診が遅れた患者の割合は38.9%で11.4ポイントの大幅な増加となっており、2002年以降で最も高い割合となっている。(表10-1)

(イ) 診断が遅れた(受診から結核の診断までの期間が1か月以上)患者の割合は、前年から2.2ポイント増加して23.1%となっている。このうち30～59歳の有症状菌喀痰塗抹陽性肺結核患者に限定すると、診断が遅れた患者の割合は16.5%で、2002年以降で最も高い割合となっている。(表10-2)

(ウ) 発見が遅れた(症状発現から結核の診断までの期間が3か月以上)患者の割合は、2.3ポイント増加して22.0%となっている。このうち30～59歳の有症状菌喀痰塗抹陽性肺結核患者に限定すると、発見が遅れた患者の割合は36.1%となっている。この発見の遅れ割合は、どちらも2002年以降で最も高い割合となっている。(表10-3)

<薬剤耐性>

2021年の新登録肺結核培養陽性結核患者5,902人のうち、薬剤感受性検査結果が判明した者(INH、RFP両剤感受性検査結果判明者)は4,551人で、割合は77.1%となり、前年の78.4%から1.3ポイント減少となっている。このうち、多剤耐性肺結核患者数(INH、RFP両剤耐性の者)は41人で、前年より5人の減少となっている。新登録肺結核培養陽性結核患者の多剤耐性結核割合は0.7%で前年と同じとなっている。また、薬剤感受性検査結果が判明した者のうち、主要4剤(HRSE)全ての薬剤に対し感受性のある患者の割合は88.7%となっている。(表11)

<糖尿病、HIV合併>

2021年の新登録結核患者のうち、糖尿病合併患者は1,775人で、新登録結核患者の15.4%となっている。また、HIV検査を実施した患者は847人で、新登録結核患者の7.4%にあたり、このうちHIV陽性は30人で、新登録結核患者の0.3%となっている。(表12)

<医療従事者>

(ア) 2021年の新登録結核患者のうち、看護師・保健師からの登録患者は116人で、前年の123人から7人の減少となっている。新登録結核患者のうちの割合は1.0%と前年と同じとなっている。年齢階級別では、50～59歳が最も多く前年の28人から8人増加して36人となっており、同年齢階級新登録結核患者の4.3%となっている。(表13-1)

(イ) 2021年の新登録結核患者のうち、医師の登録患者は27人で、前年より6人減少となっている。新登録結核患者中の割合は0.2%となっている。30歳から69歳の年齢階級別新登録結核患者中割合は0.4～0.8%となっている。(表13-2)

(ウ) 2021年の新登録結核患者のうち、理学療法士、作業療法士、検査技師、放射線技師など、看護師・保健師・医師以外の者で医療機関に勤務する者の登録患者数は212人で昨年の223人から11人の減少となり、新登録結核患者のうちの割合は1.8%となっている。年齢階級別では、20～29歳が最も多く47人となっており、同年齢階級新登録結核患者の5.1%となっている。(表13-3)

<無職臨時日雇など>

2021年の新登録結核患者のうち、登録時の年齢が20～59歳であり、登録時の職業が無職臨時日雇等であった者は600人で、前年の673人から73人減少している。新登録結核患者のうちの割合は19.9%で前年と同じとなっている。年齢階級別での患者数は、50～54歳が最も多い126人で、同年齢階級の28.2%となっている。

また、男性の患者に占める無職臨時日雇等の者の割合は55～59歳が最も大きく29.6%となっており、前年から1.2ポイント増加となっている。(表14-1、14-2)

<治療成績>

2020年の新登録結核患者の2021年末での治療成績は、治療成功が65.2

%、死亡23.9%、失敗0.1%、脱落・中断1.8%、転出2.3%、治療中6.6%、不明0.2%となっている。60歳以上から年齢階級の上昇にともなって死亡割合が増加し、60～69歳で11.9%、70～79歳で20.2%、80～89歳で37.5%、90歳以上で53.9%となっている。死亡の影響が少ない59歳以下の年齢階級の治療成功割合は77.5%～91.2%となっている。脱落・中断は50～59歳で最も高く2.3%となっている。（表15－1）

2020年の新登録再治療結核患者の2021年末での治療成績は、治療成功が69.7%、死亡16.7%、失敗0.4%、脱落・中断2.0%、転出1.8%、治療中9.4%、不明0.0%となっている。（表15－2）

2020年の潜在性結核感染症新登録者のうち治療を開始した者の2021年末での治療完了率は84.5%となっている。脱落・中断は6.9%となっているが、中高年齢階級では高く50～59歳では9.7%となっている。（表15－3）

2019年の新登録結核患者で多剤耐性結核患者の2021年末での治療成績は、対象49人のうち治療成功57.1%、死亡20.4%、失敗0.0%、脱落・中断4.1%、転出12.2%、治療中2.0%、不明4.1%となっている。

（表15－4）

表 1. 諸外国と日本の結核罹患率

国名	罹患率	年次
米 国	2.4	2020
スウェーデン	3.6	2020
オランダ	4.1	2020
デンマーク	4.9	2020
ドイツ	5.5	2020
カナダ	5.9	2020
イタリア	6.6	2020
英 国	6.9	2020
オーストラリア	7.3	2020
フランス	8.2	2020
日 本	9.2	2021
シンガポール	46	2020
中 国	59	2020
韓 国	49	2020
タイ	150	2020
ベトナム	176	2020
インドネシア	301	2020
ミャンマー	308	2020
フィリピン	539	2020

諸外国のデータは、下記より引用

World Health Organization “TB country, regional and global profiles”

https://worldhealthorg.shinyapps.io/tb_profiles/

2022年7月11日アクセス

日本以外はWHOによる推定罹患率

2021年の結核罹患率（人口10万対）は9.2であり、前年と比べ0.9減少し、結核低まん延国となった。

日本の結核罹患率は、米国等他の先進国の水準に年々近づき、近隣アジア諸国に比べても低い水準にある。

2021年の結核罹患率の減少については、新型コロナウイルス感染症の影響も考えられる。

表 2. 結核罹患率の都道府県別おもな順位

	都道府県名	罹患率
罹患率の低い5都道府県	山 梨	4.3
	秋 田	4.9
	岩 手	5.1
	長 野	5.1
	福 島	5.6
罹患率の高い5都道府県	長 崎	13.5
	大 阪	13.3
	徳 島	12.9
	沖 縄	11.9
	愛 知	11.7

同率の場合は小数点2位以下で順位を決定

都道府県別の結核罹患率（人口10万対）は、長崎県、大阪府、徳島県、沖縄県、愛知県の順に高く、山梨県、秋田県、岩手県、長野県、福島県の順に低くなっている。長崎県の結核罹患率は13.5であり、最も低い山梨県の結核罹患率4.3の3.1倍となっている。

表3. 結核の死亡数及び死亡率の年次推移

年次	死亡順位	死亡数	死亡率
1950年	1位	121,769	146.4
1955年	5位	46,735	52.3
1960年	7位	31,959	34.2
1965年	7位	22,366	22.8
1970年	8位	15,899	15.4
1975年	10位	10,567	9.5
1980年	13位	6,439	5.5
1985年	16位	4,692	3.9
1990年	17位	3,664	3.0
1991年	20位	3,325	2.7
1992年	21位	3,347	2.7
1993年	21位	3,249	2.6
1994年	23位	3,094	2.5
1995年	23位	3,178	2.6
1996年	22位	2,858	2.3
1997年	22位	2,742	2.2
1998年	22位	2,795	2.2
1999年	21位	2,935	2.3
2000年	24位	2,656	2.1
2001年	25位	2,491	2.0
2002年	25位	2,317	1.8
2003年	25位	2,337	1.9
2004年	25位	2,330	1.8
2005年	25位	2,296	1.8
2006年	26位	2,269	1.8
2007年	27位	2,194	1.7
2008年	25位	2,220	1.8
2009年	24位	2,159	1.7
2010年	26位	2,129	1.7
2011年	25位	2,166	1.7
2012年	26位	2,110	1.7
2013年	26位	2,087	1.7
2014年	26位	2,100	1.7
2015年	29位	1,956	1.6
2016年	28位	1,892	1.5
2017年	30位	2,306	1.9
2018年	30位	2,204	1.8
2019年	31位	2,087	1.7
2020年	-	1,909	1.5
2021年	-	1,844	1.5

(注) 死亡率は人口10万対

人口動態統計より。2021年は概数。

2017年より死因統計に使用する分類を変更したことに伴い、死因を選択する統計上のルールも変更された。死因別死亡数の一部にみられる数値の大幅な変化には、これらの影響による変動が含まれている(人口動態統計月報年計(概数)の概況より)。

2020年～2021年は結核の死因の順位の公表はなかった。

2021年の結核による死亡数は1,844人(概数)で、前年の1,909人に比べ65人減少している。死亡率(人口10万対)は1.5で前年と同じである。

表4-1. 新登録結核患者数及び罹患率の年次推移

区 分	全結核（新分類）				全結核（旧分類）			
	実数／前年比		罹患率（人口10万対） ／前年比		実数／前年比		罹患率（人口10万対） ／前年比	
1992年					48,956		39.3	
1993年					47,437	△1,519	38.0	△1.3
1994年					44,590	△2,847	35.7	△2.3
1995年					43,078	△1,512	34.3	△1.4
1996年					42,472	△ 606	33.7	△0.6
1997年					42,715	243	33.9	0.2
1998年	41,033		32.4		44,016	1,301	34.8	0.9
1999年	43,818	2,785	34.6	2.2				
2000年	39,384	△4,434	31.0	△3.6				
2001年	35,489	△3,895	27.9	△3.1				
2002年	32,828	△2,661	25.8	△2.1				
2003年	31,638	△1,190	24.8	△1.0				
2004年	29,736	△1,902	23.3	△1.5				
2005年	28,319	△1,417	22.2	△1.1				
2006年	26,384	△1,935	20.6	△1.6				
2007年	25,311	△1,073	19.8	△0.8				
2008年	24,760	△551	19.4	△0.4				
2009年	24,170	△590	19.0	△0.4				
2010年	23,261	△909	18.2	△0.8				
2011年	22,681	△580	17.7	△0.5				
2012年	21,283	△1,398	16.7	△1.0				
2013年	20,495	△788	16.1	△0.6				
2014年	19,615	△880	15.4	△0.7				
2015年	18,280	△1,335	14.4	△1.0				
2016年	17,625	△655	13.9	△0.5				
2017年	16,789	△836	13.3	△0.6				
2018年	15,590	△1,199	12.3	△1.0				
2019年	14,460	△1,130	11.5	△0.8				
2020年	12,739	△1,721	10.1	△1.4				
2021年	11,519	△1,220	9.2	△0.9				

2021年に、新たに結核患者として登録された者の数（新登録結核患者数）は11,519人で、前年より1,220人(9.6%)減少している。減少率を見ると、2020年の前年からの減少率は11.9%（14,460人→12,739人）の大幅な減少であったが、2021年の減少幅は2.3ポイントの縮小となっている。

2021年の結核罹患率（人口10万対）は9.2であり、前年の10.1より0.9(8.9%)減少し、結核低まん延の水準である罹患率10.0以下となっている。減少率を見ると、2020年の前年からの減少率は12.2%であることから、減少幅は3.3ポイントの縮小となっている

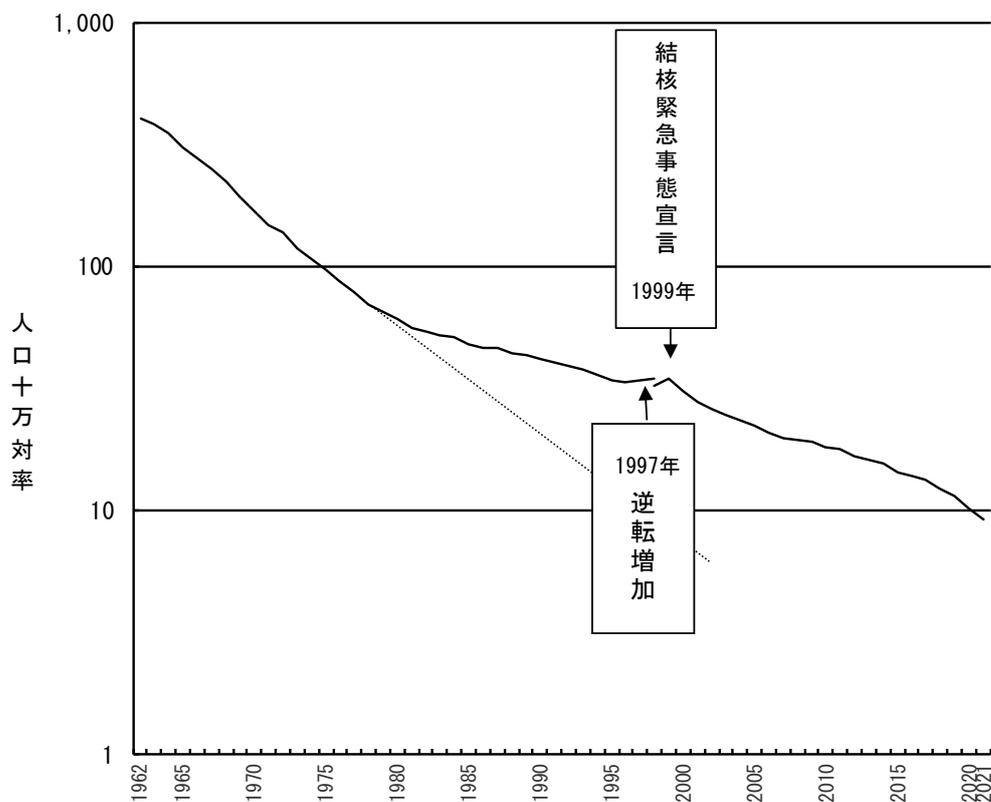
表4-2. 新登録結核患者及び罹患率の年次推移（喀痰塗抹陽性肺結核患者数、再掲）

区分	喀痰塗抹陽性肺結核(新分類) (再掲)		喀痰塗抹陽性 患者の割合 (%/全結核)	塗抹陽性肺結核(旧分類) (再掲)		塗抹陽性患者 の割合 (%/全結核)
	実数/前年比	罹患率 (人口10万対)/前年比		実数/前年比	罹患率 (人口10万対)/前年比	
1992年				15,540	12.5	31.7
1993年				15,210 △330	12.2 △0.3	32.1
1994年				14,777 △433	11.8 △0.4	33.1
1995年				15,103 326	12.0 0.2	35.1
1996年				15,035 △68	11.9 △0.1	35.4
1997年				15,967 932	12.7 0.8	37.4
1998年	13,405	10.6	32.7	16,294 327	12.9 0.2	37.0
1999年	14,482 1,077	11.4 0.8	33.1			
2000年	13,220 △1,262	10.4 △1.0	33.6			
2001年	12,656 △564	9.9 △0.5	35.7			
2002年	11,933 △723	9.4 △0.5	36.4			
2003年	11,857 △76	9.3 △0.1	37.5			
2004年	11,445 △412	9.0 △0.3	38.5			
2005年	11,318 △127	8.9 △0.1	40.0			
2006年	10,492 △826	8.2 △0.7	39.8			
2007年	10,204 △288	8.0 △0.2	40.3			
2008年	9,809 △395	7.7 △0.3	39.6			
2009年	9,675 △134	7.6 △0.1	40.0			
2010年	9,019 △656	7.0 △0.6	38.8			
2011年	8,654 △365	6.8 △0.2	38.2			
2012年	8,237 △417	6.5 △0.3	38.7			
2013年	8,119 △118	6.4 △0.1	39.6			
2014年	7,651 △468	6.0 △0.4	39.0			
2015年	7,131 △520	5.6 △0.4	39.0			
2016年	6,642 △489	5.2 △0.4	37.7			
2017年	6,359 △283	5.0 △0.2	37.9			
2018年	5,781 △578	4.6 △0.4	37.1			
2019年	5,231 △550	4.1 △0.5	36.2			
2020年	4,615 △616	3.7 △0.4	36.2			
2021年	4,127 △488	3.3 △0.4	35.8			

喀痰塗抹陽性肺結核の患者数は4,127人で、前年より488人（10.6%）減少している。

喀痰塗抹陽性肺結核の罹患率（人口10万対）は3.3であり、前年の3.7より0.4減少している。喀痰塗抹陽性肺結核の患者が全体に占める割合は35.8%で、前年から0.4ポイントの減少となっている。

図1. 結核罹患率の推移(全結核)



2021年の結核罹患率（人口10万対）は9.2であり、前年の10.1より0.9(8.9%)減少し、結核低まん延の水準である罹患率10.0以下となっている。減少率を見ると、2020年の前年からの減少率は12.2%であることから、減少幅は3.3ポイントの縮小となっている。

表5-1. 年次別・年齢階級別 新登録結核患者数

() 内は構成比

区 分	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
総 数	16,789 (100.0)	15,590 (100.0)	14,460 (100.0)	12,739 (100.0)	11,519 (100.0)
0～4歳	31 (0.2)	24 (0.2)	18 (0.1)	27 (0.2)	14 (0.1)
5～9歳	10 (0.1)	6 (0.0)	9 (0.1)	9 (0.1)	5 (0.0)
10～14歳	18 (0.1)	21 (0.1)	11 (0.1)	16 (0.1)	10 (0.1)
15～19歳	148 (0.9)	158 (1.0)	142 (1.0)	75 (0.6)	98 (0.9)
20～29歳	1,231 (7.3)	1,273 (8.2)	1,164 (8.0)	1,027 (8.1)	930 (8.1)
30～39歳	987 (5.9)	885 (5.7)	767 (5.3)	686 (5.4)	597 (5.2)
40～49歳	1,159 (6.9)	1,034 (6.6)	985 (6.8)	741 (5.8)	640 (5.6)
50～59歳	1,268 (7.6)	1,150 (7.4)	1,054 (7.3)	924 (7.3)	841 (7.3)
60～69歳	2,024 (12.1)	1,704 (10.9)	1,472 (10.2)	1,262 (9.9)	1,070 (9.3)
70～79歳	3,187 (19.0)	2,995 (19.2)	2,810 (19.4)	2,547 (20.0)	2,241 (19.5)
80～89歳	4,822 (28.7)	4,534 (29.1)	4,061 (28.1)	3,686 (28.9)	3,440 (29.9)
90歳以上	1,904 (11.3)	1,806 (11.6)	1,967 (13.6)	1,739 (13.7)	1,633 (14.2)

年齢階級別の新登録結核患者数では、0～14歳の小児結核は29人で前年から23人(44.2%)の減少となっている。15歳～19歳で23人(30.7%)の増加がみられたが、その他は全ての年齢階級で新登録結核患者数は減少となっている。20歳以上で減少数が最も大きかったのは70～79歳で306人(12.0%)の減少となっている。各年齢階級別で全体に占める割合は、80～89歳が29.9%と最も大きくなっている。90歳以上でも割合は14.2%となっており増加傾向は続いている。

表5-2. 年次別・年齢階級別 喀痰塗抹陽性肺結核新登録患者数

() 内は構成比

区 分	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
総 数	6,359 (100.0)	5,781 (100.0)	5,231 (100.0)	4,615 (100.0)	4,127 (100.0)
0～4歳	1 (0.0)	1 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
5～9歳	1 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
10～14歳	2 (0.0)	3 (0.1)	0 (0.0)	3 (0.1)	2 (0.0)
15～19歳	40 (0.6)	40 (0.7)	38 (0.7)	20 (0.4)	35 (0.8)
20～29歳	289 (4.5)	296 (5.1)	296 (5.7)	255 (5.5)	202 (4.9)
30～39歳	305 (4.8)	259 (4.5)	199 (3.8)	194 (4.2)	169 (4.1)
40～49歳	371 (5.8)	321 (5.6)	308 (5.9)	226 (4.9)	182 (4.4)
50～59歳	449 (7.1)	417 (7.2)	364 (7.0)	307 (6.7)	291 (7.1)
60～69歳	804 (12.6)	693 (12.0)	525 (10.0)	489 (10.6)	379 (9.2)
70～79歳	1,238 (19.5)	1,101 (19.0)	1,035 (19.8)	925 (20.0)	794 (19.2)
80～89歳	1,995 (31.4)	1,857 (32.1)	1,595 (30.5)	1,454 (31.5)	1,374 (33.3)
90歳以上	864 (13.6)	793 (13.7)	871 (16.7)	742 (16.1)	699 (16.9)

年齢階級別の喀痰塗抹陽性肺結核新登録患者数では、0～14歳の小児結核の発生は2人となっている。15歳～19歳で15人(75.0%)の増加がみられたが、その他は全ての年齢階級で喀痰塗抹陽性肺結核新登録患者数は同数または減少となっている。20歳以上で減少数が最も大きかったのは70～79歳で131人(14.2%)の減少となっている。各年齢階級別で全体に占める割合は、80～89歳が33.3%と最も大きくなっている。

表5-3. 年次別・年齢階級別 新登録小児結核中の粟粒結核および結核性髄膜炎患者数

区分	2017年			2018年			2019年			2020年			2021年		
	粟粒結核	結核性髄膜炎	(再掲) 粟粒結核、結核性髄膜炎併発												
合計	3	2	1	1	1	0	3	0	0	1	1	1	1	0	0
0～4歳	3	1	1	1	1	0	2	0	0	1	1	1	1	0	0
5～9歳	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
10～14歳	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0

合計は小児結核(0～14歳)の合計、粟粒結核と結核性髄膜炎の重複あり

2021年患者の詳細

粟粒結核 0歳、日本出生1名、BCG接種歴不明。

2020年患者の詳細

粟粒結核、結核性髄膜炎併発0歳、日本出生1名、BCG接種歴不明。

2019年患者の詳細

粟粒結核 0歳、日本出生1名、BCG接種歴なし。

粟粒結核 0歳、日本出生1名、BCG接種歴不明。

粟粒結核 12歳、外国出生1名、BCG接種歴不明。

2018年患者の詳細

粟粒結核 0歳、日本出生1名、BCG接種歴不明。

結核性髄膜炎 0歳、日本出生1名、BCG接種歴あり。

2017年患者の詳細

粟粒結核、結核性髄膜炎併発0歳、日本出生1名、BCG接種歴あり。

粟粒結核 0歳、日本出生2名、BCG接種歴なし。

結核性髄膜炎 14歳、日本出生1名、BCG接種歴不明。

2021年に登録された小児結核患者(14歳以下)のうち、重症結核例である粟粒結核及び結核性髄膜炎患者数は、粟粒結核の0歳の患者が1人となっている。

表5-4. 年次別・年齢階級別 潜在性結核感染症（LTBI）新登録者数

（ ）内は構成比

区 分	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
総 数	7,255 (100.0)	7,414 (100.0)	7,684 (100.0)	5,575 (100.0)	5,140 (100.0)
0～4歳	439 (6.1)	425 (5.7)	411 (5.3)	365 (6.5)	281 (5.5)
5～9歳	119 (1.6)	103 (1.4)	62 (0.8)	58 (1.0)	35 (0.7)
10～14歳	73 (1.0)	69 (0.9)	53 (0.7)	36 (0.6)	28 (0.5)
15～19歳	117 (1.6)	164 (2.2)	124 (1.6)	73 (1.3)	51 (1.0)
20～29歳	799 (11.0)	958 (12.9)	867 (11.3)	514 (9.2)	431 (8.4)
30～39歳	818 (11.3)	801 (10.8)	750 (9.8)	454 (8.1)	414 (8.1)
40～49歳	1,050 (14.5)	951 (12.8)	1,025 (13.3)	641 (11.5)	547 (10.6)
50～59歳	1,050 (14.5)	1,021 (13.8)	1,145 (14.9)	760 (13.6)	703 (13.7)
60～69歳	1,190 (16.4)	1,154 (15.6)	1,147 (14.9)	906 (16.3)	747 (14.5)
70～79歳	992 (13.7)	1,129 (15.2)	1,293 (16.8)	1,033 (18.5)	1,112 (21.6)
80歳以上	608 (8.4)	639 (8.6)	807 (10.5)	735 (13.2)	791 (15.4)

2021年に新たに登録された潜在性結核感染症の者の数は5,140人で、前年より435人(7.8%)の減少となっている。年齢階級では、69歳以下の階級では登録数は減少、70歳以上では増加となっている。減少数は60～69歳の159人(17.5%)が最も多く、一方、増加は70～79歳の79人(7.6%)が最も多くなっている。

表5-5. 年次別・年齢階級別 新登録結核患者数に対する潜在性結核感染症（LTBI）
新登録者数の比

(比: 潜在性結核感染症新登録者数/新登録結核患者数)

区 分	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
総 数	0.4	0.5	0.5	0.4	0.4
0～4歳	14.2	17.7	22.8	13.5	20.1
5～9歳	11.9	17.2	6.9	6.4	7.0
10～14歳	4.1	3.3	4.8	2.3	2.8
15～19歳	0.8	1.0	0.9	1.0	0.5
20～29歳	0.6	0.8	0.7	0.5	0.5
30～39歳	0.8	0.9	1.0	0.7	0.7
40～49歳	0.9	0.9	1.0	0.9	0.9
50～59歳	0.8	0.9	1.1	0.8	0.8
60～69歳	0.6	0.7	0.8	0.7	0.7
70～79歳	0.3	0.4	0.5	0.4	0.5
80歳以上	0.1	0.1	0.1	0.1	0.2

新登録結核患者数に対する潜在性結核感染症新登録者数の比は、14歳以下の年齢階級では2.8以上となっており、潜在性結核感染症新登録患者数の方が多くなっている。特に0～4歳は20.1となっている。また、15歳以上の年齢階級は全て1を下回っており潜在性結核感染症新登録患者数の方が少なくなっている。

表5-6. 年次別・職業別 潜在性結核感染症 (LTBI) 新登録者数

() 内は構成比

区 分	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2021/2020年
総 数	7,255 (100.0)	7,414 (100.0)	7,684 (100.0)	5,575 (100.0)	5,140 (100.0)	0.9
看護師・保健師	856 (11.8)	786 (10.6)	749 (9.7)	480 (8.6)	412 (8.0)	0.9
医師	129 (1.8)	141 (1.9)	156 (2.0)	98 (1.8)	73 (1.4)	0.7
その他医療職・介護職	797 (11.0)	699 (9.4)	776 (10.1)	502 (9.0)	522 (10.2)	1.0
接客業等	148 (2.0)	175 (2.4)	180 (2.3)	142 (2.5)	102 (2.0)	0.7
教員・保育士	68 (0.9)	87 (1.2)	79 (1.0)	53 (1.0)	42 (0.8)	0.8
上記以外の常用勤労者	1,408 (19.4)	1,405 (19.0)	1,509 (19.6)	944 (16.9)	817 (15.9)	0.9
上記以外の臨時雇、日雇	271 (3.7)	267 (3.6)	255 (3.3)	143 (2.6)	155 (3.0)	1.1
上記以外の自営業・自由業	207 (2.9)	235 (3.2)	244 (3.2)	181 (3.2)	198 (3.9)	1.1
家事従事者	116 (1.6)	108 (1.5)	118 (1.5)	67 (1.2)	48 (0.9)	0.7
無職・その他	2,142 (29.5)	2,265 (30.6)	2,551 (33.2)	2,149 (38.5)	2,141 (41.7)	1.0
乳幼児	318 (4.4)	319 (4.3)	324 (4.2)	299 (5.4)	234 (4.6)	0.8
保育園・幼稚園児・小中学生	295 (4.1)	248 (3.3)	180 (2.3)	136 (2.4)	81 (1.6)	0.6
高校生以上の生徒学生等	339 (4.7)	535 (7.2)	421 (5.5)	246 (4.4)	151 (2.9)	0.6
不明	161 (2.2)	144 (1.9)	142 (1.8)	135 (2.4)	164 (3.2)	1.2

職業別では、2021年の潜在性結核感染症新登録者数における医療職(看護師・保健師、医師、その他の医療職)の数の割合は19.6%で、前年の19.4%から0.2ポイントの増加となっている。一方、無職・その他の割合が、前年の38.5%から41.7%に増加となっている。乳幼児、保育園・幼稚園児、小中学生、高校生以上の生徒学生の割合は9.1%で、前年の12.2%から3.1ポイントの減少となっている。

表5-7. 年次別・年齢階級別 外国生まれ新登録結核患者数

()内は新登録に占める割合

区分	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
総数	1,530 (9.1)	1,667 (10.7)	1,541 (10.7)	1,411 (11.1)	1,313 (11.4)
0～4歳	1 (3.2)	3 (12.5)	2 (11.1)	2 (7.4)	1 (7.1)
5～9歳	4 (40.0)	1 (16.7)	5 (55.6)	4 (44.4)	2 (40.0)
10～14歳	6 (33.3)	8 (38.1)	3 (27.3)	3 (18.8)	3 (30.0)
15～19歳	81 (54.7)	87 (55.1)	78 (54.9)	40 (53.3)	40 (40.8)
20～29歳	774 (62.9)	896 (70.4)	851 (73.1)	732 (71.3)	675 (72.6)
30～39歳	349 (35.4)	344 (38.9)	283 (36.9)	330 (48.1)	276 (46.2)
40～49歳	143 (12.3)	151 (14.6)	147 (14.9)	141 (19.0)	135 (21.1)
50～59歳	89 (7.0)	91 (7.9)	76 (7.2)	83 (9.0)	94 (11.2)
60～69歳	48 (2.4)	35 (2.1)	41 (2.8)	44 (3.5)	43 (4.0)
70～79歳	17 (0.5)	23 (0.8)	27 (1.0)	19 (0.7)	16 (0.7)
80歳以上	18 (0.3)	28 (0.4)	28 (0.5)	13 (0.0)	28 (0.6)

外国生まれ新登録結核患者数は、前年から98人減少して1,313人となっている。しかし、新登録結核患者における外国生まれの者の割合は11.4%と前年の11.1%から0.3ポイントの増加となっており、増加傾向が続いている。20～29歳では外国生まれ新登録結核患者数は前年に比べて57人の減少で675人となっているが、同年齢階級での新登録結核患者における外国生まれの者の割合は72.6%と前年から1.3ポイントの増加となっている。30～39歳では外国生まれ新登録結核患者数は54人減少して276人となり、外国生まれの者の割合も前年の48.1%から46.2%と1.9ポイント減少している。

表5-8. 年次別・年齢階級別 外国生まれ新登録結核患者数（入国5年以内、再掲）
 （ ）内は全外国生まれ新登録患者に占める割合）

区 分	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
総 数	738 (48.2)	882 (52.9)	836 (54.3)	669 (47.4)	568 (43.3)
0～4歳	1 (100.0)	3 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
5～9歳	3 (75.0)	1 (100.0)	5 (100.0)	2 (50.0)	1 (50.0)
10～14歳	2 (33.3)	4 (50.0)	1 (33.3)	0 (0.0)	2 (66.7)
15～19歳	54 (66.7)	59 (67.8)	62 (79.5)	23 (57.5)	27 (67.5)
20～29歳	491 (63.4)	617 (68.9)	588 (69.1)	458 (62.6)	384 (56.9)
30～39歳	140 (40.1)	134 (39.0)	127 (44.9)	135 (40.9)	117 (42.4)
40～49歳	28 (19.6)	35 (23.2)	32 (21.8)	29 (20.6)	23 (17.0)
50～59歳	5 (5.6)	9 (9.9)	7 (9.2)	10 (12.0)	7 (7.4)
60～69歳	12 (25.0)	10 (28.6)	8 (19.5)	11 (25.0)	5 (11.6)
70～79歳	2 (11.8)	6 (26.1)	5 (18.5)	1 (5.3)	0 (0.0)
80歳以上	0 (0.0)	4 (14.3)	1 (3.6)	0 (0.0)	1 (3.6)

外国生まれ新登録結核患者のうち、入国5年以内の者は、前年の669人から101人減少し568人となっている。特に20～29歳の年齢階級では、前年から74人減少して384人となっている。

表5-9. 年次別・年齢階級別 日本生まれ新登録結核患者数

() 内は構成比

区 分	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
総 数	14,533 (100.0)	13,570 (100.0)	12,567 (100.0)	11,080 (100.0)	9,809 (100.0)
0～4歳	28 (0.2)	21 (0.2)	16 (0.1)	25 (0.2)	13 (0.1)
5～9歳	6 (0.0)	5 (0.0)	4 (0.0)	5 (0.0)	3 (0.0)
10～14歳	11 (0.1)	13 (0.1)	8 (0.1)	13 (0.1)	7 (0.1)
15～19歳	63 (0.4)	70 (0.5)	62 (0.5)	35 (0.3)	57 (0.6)
20～29歳	435 (3.0)	367 (2.7)	307 (2.4)	287 (2.6)	243 (2.5)
30～39歳	609 (4.2)	527 (3.9)	476 (3.8)	351 (3.2)	304 (3.1)
40～49歳	961 (6.6)	864 (6.4)	825 (6.6)	588 (5.3)	490 (5.0)
50～59歳	1,133 (7.8)	1,032 (7.6)	952 (7.6)	827 (7.5)	721 (7.4)
60～69歳	1,880 (12.9)	1,629 (12.0)	1,388 (11.0)	1,197 (10.8)	990 (10.1)
70～79歳	3,012 (20.7)	2,907 (21.4)	2,720 (21.6)	2,478 (22.4)	2,141 (21.8)
80～89歳	4,594 (31.6)	4,402 (32.4)	3,929 (31.3)	3,578 (32.3)	3,274 (33.4)
90歳以上	1,801 (12.4)	1,733 (12.8)	1,880 (15.0)	1,696 (15.3)	1,566 (16.0)

(注) 出生国については日本生れと外国生まれの他に出生国不明がある。

日本生まれ新登録結核患者数は、前年の11,080人から1,271人減少して9,809人となっている。年齢階級別では80～89歳の患者数が最も多く3,274人で日本生まれ新登録結核患者の33.4%となっている。15歳～19歳で22人の増加がみられたが、その他は全ての年齢階級で患者数は減少となっている。減少数が最も大きかったのは70～79歳で337人の減少となっている。90歳以上も2020年に続いて減少となり、2021年は130人減少して1,566人となっている。

表6-1. 年次別・年齢階級別 結核罹患率

(人口10万対)

区 分	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
総 数	13.3	12.3	11.5	10.1	9.2
0～4歳	0.6	0.5	0.4	0.6	0.3
5～9歳	0.2	0.1	0.2	0.2	0.1
10～14歳	0.3	0.4	0.2	0.3	0.2
15～19歳	2.5	2.7	2.4	1.3	1.8
20～29歳	9.8	10.1	9.2	8.1	7.4
30～39歳	6.6	6.0	5.4	4.8	4.3
40～49歳	6.1	5.5	5.3	4.0	3.6
50～59歳	8.1	7.2	6.5	5.5	4.9
60～69歳	11.4	10.0	9.1	8.0	7.0
70～79歳	22.0	19.7	17.6	15.7	13.7
80～89歳	55.5	51.2	45.4	40.3	36.5
90歳以上	92.7	82.8	85.2	72.7	64.6

年齢階級別の結核罹患率は、70歳以上の高齢層で高くなっている。60～69歳の罹患率は7.0で全年齢の罹患率より低いが、70～79歳で13.7、80～89歳で36.5、90歳以上では64.6となっている。全体としては年齢階級別罹患率の年次推移は減少傾向となっている。

表6-2. 年次別・年齢階級別 結核罹患率（喀痰塗抹陽性肺結核患者、再掲）

区 分	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
総 数	5.0	4.6	4.1	3.7	3.3
0～4歳	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
5～9歳	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
10～14歳	0.0	0.1	0.0	0.1	0.0
15～19歳	0.7	0.7	0.7	0.4	0.6
20～29歳	2.3	2.4	2.3	2.0	1.6
30～39歳	2.0	1.8	1.4	1.4	1.2
40～49歳	2.0	1.7	1.7	1.2	1.0
50～59歳	2.9	2.6	2.2	1.8	1.7
60～69歳	4.5	4.1	3.2	3.1	2.5
70～79歳	8.5	7.3	6.5	5.7	4.8
80～89歳	23.0	21.0	17.8	15.9	14.6
90歳以上	42.1	36.3	37.7	31.0	27.7

菌喀痰塗抹陽性肺結核の罹患率も、同様に、高齢層ほど高くなっている。70歳代までは10未満だが、80～89歳で14.6、90歳以上では27.7となっている。

表6-3. 年次別・年齢階級別 結核罹患率（日本生れ新登録結核患者、再掲）

区 分	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
総 数	11.7	10.9	10.2	9.0	8.0
0～4歳	0.6	0.4	0.3	0.6	0.3
5～9歳	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
10～14歳	0.2	0.2	0.2	0.2	0.1
15～19歳	1.1	1.2	1.1	0.6	1.0
20～29歳	3.6	3.1	2.6	2.4	2.1
30～39歳	4.2	3.7	3.4	2.6	2.3
40～49歳	5.2	4.7	4.5	3.3	2.8
50～59歳	7.3	6.5	5.9	5.0	4.3
60～69歳	10.7	9.7	8.6	7.7	6.6
70～79歳	20.9	19.3	17.2	15.3	13.1
80～89歳	53.0	49.8	44.1	39.3	34.8
90歳以上	87.8	79.6	81.5	71.1	62.1

新登録結核患者のうち、日本生まれの患者の結核罹患率は、前年から1.0減少の8.0となっている。外国生まれ結核患者の影響が除かれた20～29歳の罹患率は2.1、30～39歳で2.3となっており、全体の罹患率からは低くなっている。

表7-1. 新登録結核患者数 都道府県別・年次推移

都道府県名	新登録結核患者数（人）					備考	（再掲）菌喀痰塗抹陽性肺結核患者数（人）				
	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年		2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
全国	16,789	15,590	14,460	12,739	11,519		6,359	5,781	5,231	4,615	4,127
北海道	461	451	389	380	335		170	154	129	153	126
青森	154	127	112	120	105		67	50	53	63	46
岩手	110	105	83	74	61		30	47	30	30	31
宮城	167	166	168	135	152	↑	54	63	61	57	55
秋田	80	74	66	63	46		37	31	27	26	26
山形	81	65	83	70	60		35	22	36	30	25
福島	138	183	128	122	101		62	68	55	40	35
茨城	323	304	299	287	221		127	125	115	87	69
栃木	228	172	188	179	151		99	58	89	55	60
群馬	184	171	156	152	123		52	47	48	45	31
埼玉	931	856	786	675	616		363	314	288	239	214
千葉	757	755	697	611	553		270	270	246	222	184
東京	2,213	1,970	1,810	1,589	1,429		807	744	624	597	545
神奈川	1,143	1,024	987	808	748		416	374	348	303	257
新潟	190	178	190	147	144		72	64	50	37	59
富山	118	107	101	71	84	↑	30	32	27	26	26
石川	138	110	100	99	97		56	32	37	30	39
福井	90	76	69	63	51		39	30	18	19	13
山梨	68	77	77	48	35		31	20	38	12	10
長野	168	186	156	138	104		72	82	66	52	31
岐阜	313	279	290	265	214		114	107	102	82	70
静岡	424	393	357	348	291		148	142	124	114	100
愛知	1,074	1,126	1,024	924	880		401	399	339	308	283
三重	219	198	167	175	148		87	79	67	54	58
滋賀	166	150	149	122	117		57	49	47	44	28
京都	410	363	354	292	271		172	136	130	112	94
大阪	1,881	1,805	1,619	1,400	1,171		796	715	660	550	473
兵庫	874	827	765	641	586		313	324	285	246	222
奈良	171	156	186	133	121		82	63	77	51	51
和歌山	139	132	117	110	89		58	52	50	55	42
鳥取	75	51	43	34	38	↑	30	19	13	11	14
島根	73	78	54	66	54		31	25	20	26	18
岡山	212	187	186	153	183	↑	88	65	67	50	60
広島	321	290	284	254	239		122	115	107	103	91
山口	171	160	154	141	119		53	52	41	40	29
徳島	118	106	96	97	92		36	38	39	35	34
香川	139	133	99	95	83		55	35	32	22	26
愛媛	147	135	112	122	110		56	46	41	54	48
高知	94	74	77	49	48		38	25	27	25	19
福岡	732	594	614	512	535	↑	280	214	196	163	189
佐賀	102	80	108	87	72		47	37	47	36	28
長崎	227	222	174	163	175	↑	71	74	53	47	49
熊本	239	201	175	170	126		80	81	61	58	39
大分	147	169	151	107	117	↑	66	81	69	50	49
宮崎	120	97	101	96	88		46	46	43	41	25
鹿児島	233	236	183	166	161		76	78	59	53	56
沖縄	226	191	176	186	175		67	57	50	62	50
指定都市（再掲）											
札幌	158	155	135	134	111		47	44	44	46	49
仙台	98	75	76	66	86	↑	31	28	31	25	28
さいたま	174	162	143	109	107		71	59	47	37	36
千葉	128	121	109	93	94	↑	57	47	44	43	35
横浜	509	441	412	357	335		168	151	148	126	119
川崎	217	196	184	153	138		92	66	59	58	46
相模原	70	60	57	53	47		28	26	23	23	23
新潟	77	72	76	52	45		33	24	20	17	22
静岡	96	83	72	74	63		30	39	25	31	19
浜松	88	86	86	96	73		29	27	19	32	19
名古屋	419	437	422	378	336		145	165	159	140	119
京都	235	227	221	173	164		101	91	85	68	56
大阪	880	798	701	578	512		368	333	304	234	203
堺	138	156	154	134	119		64	67	75	58	50
神戸	302	258	262	213	201		109	73	80	81	77
岡山	80	73	72	59	81	↑	34	21	24	16	21
広島	109	108	99	94	86		40	42	36	38	37
北九州	205	136	137	123	142	↑	88	44	31	31	45
福岡	191	165	205	149	138		74	65	72	50	51
熊本	82	76	73	64	46		22	32	30	23	14
東京都特別区	1,679	1,525	1,381	1,257	1,071		603	573	478	470	408

(注)備考欄において「↑」は2021年の新登録数が2020年を上回ったものを表す。

都道府県別の新登録結核患者数は、47都道府県のうち7の県（宮城県、富山県、鳥取県、岡山県、福岡県、長崎県、大分県）で増加している。新登録結核患者数が最も多いのは東京都の1,429人で、次いで大阪府の1,171人となっている。

表7-2. 結核罹患率 都道府県別・年次推移

都道府県名	罹患率（人口10万対）					備考	（再掲）菌喀痰塗抹陽性肺結核罹患率（人口10万対）				
	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年		2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
全国	13.3	12.3	11.5	10.1	9.2		5.0	4.6	4.1	3.7	3.3
北海道	8.7	8.5	7.4	7.3	6.5		3.2	2.9	2.5	2.9	2.4
青森	12.0	10.1	9.0	9.7	8.6		5.2	4.0	4.3	5.1	3.8
岩手	8.8	8.5	6.8	6.1	5.1	○3	2.4	3.8	2.4	2.5	2.6
宮城	7.2	7.2	7.3	5.9	6.6	↑	2.3	2.7	2.6	2.5	2.4
秋田	8.0	7.5	6.8	6.6	4.9	○2	3.7	3.2	2.8	2.7	2.8
山形	7.4	6.0	7.7	6.6	5.7		3.2	2.0	3.3	2.8	2.4
福島	7.3	9.8	6.9	6.7	5.6	○5	3.3	3.6	3.0	2.2	1.9
茨城	11.2	10.6	10.5	10.0	7.7		4.4	4.3	4.0	3.0	2.4
栃木	11.7	8.8	9.7	9.3	7.9		5.1	3.0	4.6	2.8	3.1
群馬	9.4	8.8	8.0	7.8	6.4		2.7	2.4	2.5	2.3	1.6
埼玉	12.7	11.7	10.7	9.2	8.4		5.0	4.3	3.9	3.3	2.9
千葉	12.1	12.1	11.1	9.7	8.8		4.3	4.3	3.9	3.5	2.9
東京	16.1	14.3	13.0	11.3	10.2		5.9	5.4	4.5	4.2	3.9
神奈川	12.5	11.2	10.7	8.7	8.1		4.5	4.1	3.8	3.3	2.8
新潟	8.4	7.9	8.5	6.7	6.6		3.2	2.8	2.2	1.7	2.7
富山	11.2	10.2	9.7	6.9	8.2	↑	2.8	3.0	2.6	2.5	2.5
石川	12.0	9.6	8.8	8.7	8.6		4.9	2.8	3.3	2.6	3.5
福井	11.6	9.8	9.0	8.2	6.7		5.0	3.9	2.3	2.5	1.7
山梨	8.3	9.4	9.5	5.9	4.3	○1	3.8	2.4	4.7	1.5	1.2
長野	8.1	9.0	7.6	6.7	5.1	○4	3.5	4.0	3.2	2.5	1.5
岐阜	15.6	14.0	14.6	13.4	10.9		5.7	5.4	5.1	4.1	3.6
静岡	11.5	10.7	9.8	9.6	8.1		4.0	3.9	3.4	3.1	2.8
愛知	14.3	14.9	13.6	12.3	11.7	△5	5.3	5.3	4.5	4.1	3.8
三重	12.2	11.1	9.4	9.9	8.4		4.8	4.4	3.8	3.1	3.3
滋賀	11.8	10.6	10.5	8.6	8.3		4.0	3.5	3.3	3.1	2.0
京都	15.8	14.0	13.7	11.3	10.6		6.6	5.2	5.0	4.3	3.7
大阪	21.3	20.5	18.4	15.8	13.3	△2	9.0	8.1	7.5	6.2	5.4
兵庫	15.9	15.1	14.0	11.7	10.8		5.7	5.9	5.2	4.5	4.1
奈良	12.7	11.7	14.0	10.0	9.2		6.1	4.7	5.8	3.9	3.9
和歌山	14.7	14.1	12.6	11.9	9.7		6.1	5.6	5.4	6.0	4.6
鳥取	13.3	9.1	7.7	6.1	6.9	↑	5.3	3.4	2.3	2.0	2.6
島根	10.7	11.5	8.0	9.8	8.1		4.5	3.7	3.0	3.9	2.7
岡山	11.1	9.9	9.8	8.1	9.8	↑	4.6	3.4	3.5	2.6	3.2
広島	11.3	10.3	10.1	9.1	8.6		4.3	4.1	3.8	3.7	3.3
山口	12.4	11.7	11.3	10.5	9.0		3.8	3.8	3.0	3.0	2.2
徳島	15.9	14.4	13.2	13.5	12.9	△3	4.8	5.2	5.4	4.9	4.8
香川	14.4	13.8	10.4	10.0	8.8		5.7	3.6	3.3	2.3	2.8
愛媛	10.8	10.0	8.4	9.1	8.3		4.1	3.4	3.1	4.0	3.6
高知	13.2	10.5	11.0	7.1	7.0		5.3	3.5	3.9	3.6	2.8
福岡	14.3	11.6	12.0	10.0	10.4	↑	5.5	4.2	3.8	3.2	3.7
佐賀	12.4	9.8	13.3	10.7	8.9		5.7	4.5	5.8	4.4	3.5
長崎	16.8	16.6	13.1	12.4	13.5	↑△1	5.2	5.5	4.0	3.6	3.8
熊本	13.5	11.4	10.0	9.8	7.3		4.5	4.6	3.5	3.3	2.3
大分	12.8	14.8	13.3	9.5	10.5	↑	5.7	7.1	6.1	4.4	4.4
宮崎	11.0	9.0	9.4	9.0	8.3		4.2	4.3	4.0	3.8	2.4
鹿児島	14.3	14.6	11.4	10.5	10.2		4.7	4.8	3.7	3.3	3.6
沖縄	15.7	13.2	12.1	12.7	11.9	△4	4.6	3.9	3.4	4.2	3.4
指定都市（再掲）											
札幌	8.0	7.9	6.9	6.8	5.6		2.4	2.2	2.2	2.3	2.5
仙台	9.0	6.9	7.0	6.0	7.8	↑	2.9	2.6	2.8	2.3	2.6
さいたま	13.5	12.5	10.9	8.2	8.0		5.5	4.5	3.6	2.8	2.7
千葉	13.1	12.4	11.1	9.5	9.6	↑	5.8	4.8	4.5	4.4	3.6
横浜	13.6	11.8	11.0	9.5	8.9		4.5	4.0	3.9	3.3	3.2
川崎	14.4	12.9	12.0	9.9	9.0		6.1	4.4	3.9	3.8	3.0
相模原	9.7	8.3	7.9	7.3	6.5		3.9	3.6	3.2	3.2	3.2
新潟	9.6	9.0	9.5	6.6	5.7		4.1	3.0	2.5	2.2	2.8
静岡	13.6	11.8	10.3	10.7	9.1		4.2	5.5	3.6	4.5	2.8
浜松	11.1	10.8	10.9	12.1	9.2		3.6	3.4	2.4	4.0	2.4
名古屋	18.1	18.8	18.1	16.2	14.4		6.3	7.1	6.8	6.0	5.1
京都	16.0	15.5	15.1	11.8	11.3		6.9	6.2	5.8	4.6	3.9
大阪	32.4	29.3	25.6	21.0	18.6		13.6	12.2	11.1	8.5	7.4
堺	16.5	18.6	18.6	16.2	14.5		7.7	8.0	9.1	7.0	6.1
神戸	19.7	16.9	17.2	14.0	13.2		7.1	4.8	5.3	5.3	5.1
岡山	11.3	10.3	10.2	8.1	11.2	↑	4.8	3.0	3.4	2.2	2.9
広島	9.1	9.0	8.3	7.8	7.2		3.3	3.5	3.0	3.2	3.1
北九州	21.6	14.4	14.6	13.1	15.2	↑	9.3	4.7	3.3	3.3	4.8
福岡	12.2	10.4	12.9	9.2	8.5		4.7	4.1	4.5	3.1	3.1
熊本	11.1	10.3	9.9	8.7	6.2		3.0	4.3	4.1	3.1	1.9
東京都特別区	17.8	16.0	14.3	12.9	11.1		6.4	6.0	5.0	4.8	4.2

注1) 備考欄において「↑」は2021年の罹患率が2020年を上回ったもの、「○1」は罹患率下位1位を、「△1」は罹患率上位1位を表す。

同率の場合は小数点2位以下で順位を決定

都道府県別の結核罹患率は、47都道府県のうち7の県（宮城県、富山県、鳥取県、岡山県、福岡県、長崎県、大分県）で前年から増加している。一方、結核低まん延の水準である罹患率が10.0以下の都道府県の数、35に達している。最も低い山梨県の罹患率は4.3となっている。

表 8. 年末時結核登録者数及び有病率の年次推移

区 分	総数／前年比		活 動 性 全 結 核			
			患者数／前年比		有病率(人口10万対) ／前年比	
1994年	181,470	△10,114	70,781	△5,894	56.6	△4.9
1995年	168,581	△12,889	65,167	△5,614	51.9	△4.7
1996年	132,958	△35,623	59,760	△5,407	47.5	△4.4
1997年	121,762	△11,196	55,409	△4,351	43.9	△3.6
1998年	107,058		49,205		38.9	
1999年	104,813	△2,245	48,888	△317	38.6	△0.3
2000年	99,481	△5,332	41,971	△6,917	33.1	△5.5
2001年	91,395	△8,086	36,288	△5,683	28.5	△4.6
2002年	82,974	△8,421	32,396	△3,892	25.4	△3.1
2003年	77,211	△5,763	29,717	△2,679	23.3	△2.1
2004年	72,079	△5,132	26,945	△2,772	21.1	△2.2
2005年	68,508	△3,571	23,969	△2,976	18.8	△2.3
2006年	65,695	△2,813	21,976	△1,993	17.2	△1.6
2007年	63,556	△2,139	20,637	△1,339	16.2	△1.0
2008年	62,244	△1,312	20,021	△616	15.7	△0.5
2009年	59,573	△2,671	18,915	△1,106	14.8	△0.9
2010年	55,573	△4,000	17,927	△988	14.0	△0.8
2011年	55,196	△377	17,264	△663	13.5	△0.5
2012年	52,173	△3,023	14,858	△2,406	11.7	△1.8
2013年	49,814	△2,359	13,957	△901	11.0	△0.7
2014年	47,845	△1,969	13,513	△444	10.6	△0.4
2015年	44,888	△2,957	12,534	△979	9.9	△0.7
2016年	42,299	△2,589	11,717	△817	9.2	△0.7
2017年	39,670	△2,629	11,097	△620	8.8	△0.4
2018年	37,134	△2,536	10,448	△649	8.3	△0.5
2019年	34,523	△2,611	9,695	△753	7.7	△0.6
2020年	31,551	△2,972	8,640	△1,055	6.8	△0.9
2021年	27,754	△3,797	7,744	△896	6.2	△0.6

1998年以降は新分類

2021年末現在の結核登録者数は27,754人と、前年の31,551人より3,797人減少している。そのうち、活動性全結核の患者数は7,744人と、前年より896人減少している。また、2021年末の結核有病率は、前年の6.8から0.6減少し、6.2となっている。

表9. 年次別 前回治療開始年代別再治療者数（割合）

前回治療開始年	2017年登録者	2018年登録者	2019年登録者	2020年登録者	2021年登録者
総数	839 (100%)	732 (100%)	667 (100%)	546 (100%)	460 (100%)
1940年代以前	46 (5.5)	36 (4.9)	27 (4.0)	17 (3.1)	15 (3.3)
1950年代	106 (12.6)	79 (10.8)	80 (12.0)	65 (11.9)	58 (12.6)
1960年代	61 (7.3)	57 (7.8)	42 (6.3)	31 (5.7)	20 (4.3)
1970年代	28 (3.3)	19 (2.6)	24 (3.6)	16 (2.9)	16 (3.5)
1980年代	29 (3.5)	14 (1.9)	21 (3.1)	12 (2.2)	8 (1.7)
1990年代	43 (5.1)	32 (4.4)	35 (5.2)	25 (4.6)	20 (4.3)
2000年代	94 (11.2)	89 (12.2)	67 (10.0)	42 (7.7)	44 (9.6)
2010年代	432 (51.5)	406 (55.5)	371 (55.6)	305 (55.9)	195 (42.4)
2020年代以降				33 (6.0)	84 (18.3)
(再掲) 2010年代の再治療者数					
2010年	33 (7.6)	21 (5.2)	13 (3.5)	7 (2.1)	9 (3.2)
2011年	18 (4.2)	18 (4.4)	12 (3.2)	14 (4.1)	9 (3.2)
2012年	25 (5.8)	24 (5.9)	19 (5.1)	17 (5.0)	8 (2.9)
2013年	40 (9.3)	29 (7.1)	20 (5.4)	9 (2.7)	15 (5.4)
2014年	64 (14.8)	33 (8.1)	20 (5.4)	13 (3.8)	12 (4.3)
2015年	103 (23.8)	57 (14.0)	34 (9.2)	21 (6.2)	14 (5.0)
2016年	113 (26.2)	95 (23.4)	60 (16.2)	32 (9.5)	10 (3.6)
2017年	36 (8.3)	98 (24.1)	82 (22.1)	42 (12.4)	21 (7.5)
2018年	-	31 (7.6)	83 (22.4)	75 (22.2)	34 (12.2)
2019年	-	-	28 (7.5)	75 (22.2)	63 (22.6)
2020年			-	33 (9.8)	57 (20.4)
2021年				-	27 (9.7)

(注) 前回治療開始年は、登録情報あるいは本人・家族等への問診による。
 対象は 2017～2021年新登録者で治療歴が再治療の患者。前回治療年が今回の登録年に近い者には、「登録中の再登録」による者が多いと推察される。

2021年新登録結核患者のうちの再治療者は、前年の546人から86人減少して460人となっている。このうち、前回治療年が2010年～2019年の者は195人、2020年以降の者は84人となっている。前回治療年が2010年以降の者は再治療者のうち60.7%となっている。

表10-1. 発病から初診までの期間が2か月以上の割合
有症状肺結核

	発病～初診までの期間が 2か月以上の割合(%)
2002年	19.3
2003年	18.8
2004年	18.8
2005年	18.2
2006年	19.4
2007年	18.0
2008年	18.2
2009年	17.9
2010年	18.3
2011年	18.6
2012年	18.7
2013年	18.1
2014年	18.8
2015年	20.0
2016年	19.7
2017年	20.8
2018年	20.6
2019年	20.4
2020年	19.1
2021年	20.8

(再掲) 30-59歳有症状菌喀痰塗抹陽性肺結核

	発病～初診までの期間が 2か月以上の割合(%)
2002年	34.2
2003年	32.3
2004年	31.6
2005年	31.4
2006年	33.2
2007年	32.1
2008年	32.3
2009年	30.7
2010年	32.6
2011年	32.9
2012年	33.7
2013年	31.5
2014年	38.0
2015年	37.1
2016年	33.3
2017年	35.0
2018年	34.5
2019年	34.4
2020年	27.5
2021年	38.9

2021年の新登録肺結核患者のうち有症状の者の中で、受診が遅れた（症状発現から受診までの期間が2か月以上）患者の割合は、前年から1.7ポイント増加して20.8%となっている。このうち30～59歳の有症状菌喀痰塗抹陽性肺結核患者に限定すると、受診が遅れた患者の割合は38.9%で11.4ポイントの大幅な増加となっており、2002年以降で最も高い割合となっている。

表10-2. 初診から診断（登録）までの期間が1か月以上の割合

有症状肺結核

	初診～診断までの期間が 1か月以上の割合(%)
2002年	27.2
2003年	26.0
2004年	25.0
2005年	25.7
2006年	24.3
2007年	21.7
2008年	19.9
2009年	20.4
2010年	22.6
2011年	22.7
2012年	22.0
2013年	22.1
2014年	21.6
2015年	21.5
2016年	22.0
2017年	21.7
2018年	22.0
2019年	21.9
2020年	20.9
2021年	23.1

(再掲) 30-59歳有症状菌喀痰塗抹陽性肺結核

	初診～診断までの期間が 1か月以上の割合(%)
2002年	15.1
2003年	14.6
2004年	14.1
2005年	14.6
2006年	13.9
2007年	13.2
2008年	10.6
2009年	10.9
2010年	13.6
2011年	14.8
2012年	15.0
2013年	13.9
2014年	13.7
2015年	13.6
2016年	16.1
2017年	14.7
2018年	15.7
2019年	15.2
2020年	14.3
2021年	16.5

2002年～2006年までは初診から登録までの期間、2007年以降は初診から診断までの期間

診断が遅れた（受診から結核の診断までの期間が1か月以上）患者の割合は、前年から2.2ポイント増加して23.1%となっている。このうち30～59歳の有症状菌喀痰塗抹陽性肺結核患者に限定すると、診断が遅れた患者の割合は16.5%で、2002年以降で最も高い割合となっている。

表10-3. 発病から診断（登録）までの期間が3か月以上の割合

有症状肺結核

	発病～診断までの期間が 3か月以上の割合(%)
2002年	21.5
2003年	21.0
2004年	20.3
2005年	19.7
2006年	20.7
2007年	18.5
2008年	18.1
2009年	18.2
2010年	19.6
2011年	19.4
2012年	19.6
2013年	18.7
2014年	19.0
2015年	20.4
2016年	19.6
2017年	21.2
2018年	20.7
2019年	21.7
2020年	19.7
2021年	22.0

(再掲) 30-59歳有症状菌喀痰塗抹陽性肺結核

	発病～診断までの期間が 3か月以上の割合(%)
2002年	30.3
2003年	29.3
2004年	28.2
2005年	28.7
2006年	29.5
2007年	26.9
2008年	27.0
2009年	26.9
2010年	28.4
2011年	29.8
2012年	30.5
2013年	29.0
2014年	32.9
2015年	35.5
2016年	32.6
2017年	33.6
2018年	30.6
2019年	33.3
2020年	27.6
2021年	36.1

2002年～2006年までは発病から登録までの期間、2007年以降は発病から診断までの期間

発見が遅れた（症状発現から結核の診断までの期間が3か月以上）患者の割合は、2.3ポイント増加して22.0%となっている。このうち30～59歳の有症状菌喀痰塗抹陽性肺結核患者に限定すると、発見が遅れた患者の割合は36.1%となっている。この発見の遅れ割合は、どちらも2002年以降で最も高い割合となっている。

表11. 年次別 新登録肺結核培養陽性結核患者の薬剤感受性検査結果

() 内は構成比

区 分	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
新登録肺結核患者数	13,011	12,033	11,094	9,446	8,413
培養陽性患者数	9,580 (100.0)	9,016 (100.0)	8,110 (100.0)	6,645 (100.0)	5,902 (100.0)
INH, RFP両剤耐性	52 (0.5)	55 (0.6)	44 (0.5)	46 (0.7)	41 (0.7)
(再掲) INH, RFP両剤耐性のうち外国出生患者	24	29	21	23	19
上記以外でINH耐性含む	331 (3.5)	322 (3.6)	315 (3.9)	251 (3.8)	180 (3.0)
上記以外でRFP耐性含む	28 (0.3)	32 (0.4)	21 (0.3)	14 (0.2)	15 (0.3)
その他耐性	442 (4.6)	372 (4.1)	339 (4.2)	268 (4.0)	239 (4.0)
HRSEすべてに感受性	6,981 (72.9)	6,734 (74.7)	5,899 (72.7)	4,583 (69.0)	4,038 (68.4)
HR感受性その他不明	57 (0.6)	55 (0.6)	40 (0.5)	47 (0.7)	38 (0.6)
未実施・他・不明	1,689 (17.6)	1,446 (16.0)	1,452 (17.9)	1,436 (21.6)	1,351 (22.9)
(再掲) 薬剤感受性検査結果判明者	7,891 (82.4)	7,570 (84.0)	6,658 (82.1)	5,209 (78.4)	4,551 (77.1)
(再掲) 薬剤感受性検査結果判明者					
培養陽性患者数	7,891 (100.0)	7,570 (100.0)	6,658 (100.0)	5,209 (100.0)	4,551 (100.0)
INH, RFP両剤耐性	52 (0.7)	55 (0.7)	44 (0.7)	46 (0.9)	41 (0.9)
上記以外でINH耐性含む	331 (4.2)	322 (4.3)	315 (4.7)	251 (4.8)	180 (4.0)
上記以外でRFP耐性含む	28 (0.4)	32 (0.4)	21 (0.3)	14 (0.3)	15 (0.3)
その他耐性	442 (5.6)	372 (4.9)	339 (5.1)	268 (5.1)	239 (5.3)
HRSEすべてに感受性	6,981 (88.5)	6,734 (89.0)	5,899 (88.6)	4,583 (88.0)	4,038 (88.7)
HR感受性その他不明	57 (0.7)	55 (0.7)	40 (0.6)	47 (0.9)	38 (0.8)

INH, RFP両剤感受性検査結果判明者を薬剤感受性検査結果判明とした。

2021年の新登録肺結核培養陽性結核患者5,902人のうち、薬剤感受性検査結果が判明した者(INH、RFP両剤感受性検査結果判明者)は4,551人で、割合は77.1%となり、前年の78.4%から1.3ポイント減少となっている。このうち、多剤耐性肺結核患者数(INH, RFP両剤耐性の者)は41人で、前年より5人の減少となっている。新登録肺結核培養陽性結核患者の多剤耐性結核割合は0.7%で前年と同じとなっている。また、薬剤感受性検査結果が判明した者のうち、主要4剤(HRSE)全ての薬剤に対し感受性のある患者の割合は88.7%となっている。

表12. 年次別 新登録結核患者の糖尿病合併あるいはH I V感染

(() 内は構成比)

区 分	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
新登録結核患者数	16,789 (100.0)	15,590 (100.0)	14,460 (100.0)	12,739 (100.0)	11,519 (100.0)
糖尿病ありの者	2,368 (14.1)	2,210 (14.2)	2,105 (14.6)	1,883 (14.8)	1,775 (15.4)
なしの者	12,576 (74.9)	11,630 (74.6)	10,680 (73.9)	9,117 (71.6)	8,257 (71.7)
不明の者	1,845 (11.0)	1,750 (11.2)	1,675 (11.6)	1,739 (13.7)	1,487 (12.9)
H I V 検査実施陽性者	34 (0.2)	44 (0.3)	29 (0.2)	31 (0.2)	30 (0.3)
H I V 検査実施陰性者	1,454 (8.7)	1,251 (8.0)	975 (6.7)	846 (6.6)	817 (7.1)
H I V 検査未実施者	4,753 (28.3)	4,757 (30.5)	4,942 (34.2)	4,292 (33.7)	3,838 (33.3)
不明の者	10,548 (62.8)	9,538 (61.2)	8,514 (58.9)	7,570 (59.4)	6,834 (59.3)

2021年の新登録結核患者のうち、糖尿病合併患者は1,775人で、新登録結核患者の15.4%となっている。また、HIV検査を実施した患者は847人で、新登録結核患者の7.4%にあたり、このうちHIV陽性は30人で、新登録結核患者の0.3%となっている。

表13-1. 年次別 医療従事者の新登録結核患者数（看護師・保健師）

（ ）内は新登録に占める割合

	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
総数	216 (1.3)	168 (1.1)	152 (1.1)	123 (1.0)	116 (1.0)
15～19歳	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
20～29歳	46 (3.7)	26 (2.0)	20 (1.7)	15 (1.5)	15 (1.6)
30～39歳	59 (6.0)	38 (4.3)	27 (3.5)	36 (5.2)	16 (2.7)
40～49歳	54 (4.7)	58 (5.6)	45 (4.6)	29 (3.9)	33 (5.2)
50～59歳	43 (3.4)	29 (2.5)	36 (3.4)	28 (3.0)	36 (4.3)
60～69歳	14 (0.7)	16 (0.9)	20 (1.4)	12 (1.0)	13 (1.2)
70～79歳	0 (0.0)	1 (0.0)	4 (0.1)	2 (0.1)	3 (0.1)
80歳以上	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (0.0)	0 (0.0)

2021年の新登録結核患者のうち、看護師・保健師からの登録患者は116人で、前年の123人から7人の減少となっている。新登録結核患者のうちの割合は1.0%と前年と同じとなっている。年齢階級別では、50～59歳が最も多く前年の28人から8人増加して36人となっており、同年齢階級新登録結核患者の4.3%となっている。

表13-2. 年次別 医療従事者の新登録結核患者数（医師）

（ ）内は新登録に占める割合

	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
総数	38 (0.2)	34 (0.2)	39 (0.3)	33 (0.3)	27 (0.2)
20～29歳	4 (0.3)	3 (0.2)	1 (0.1)	1 (0.1)	1 (0.1)
30～39歳	6 (0.6)	3 (0.3)	5 (0.7)	7 (1.0)	5 (0.8)
40～49歳	6 (0.5)	5 (0.5)	5 (0.5)	8 (1.1)	5 (0.8)
50～59歳	7 (0.6)	10 (0.9)	6 (0.6)	4 (0.4)	5 (0.6)
60～69歳	4 (0.2)	4 (0.2)	8 (0.5)	5 (0.4)	4 (0.4)
70～79歳	6 (0.2)	2 (0.1)	6 (0.2)	5 (0.2)	3 (0.1)
80歳以上	5 (0.1)	7 (0.1)	8 (0.1)	3 (0.1)	4 (0.1)

2021年の新登録結核患者のうち、医師の登録患者は27人で、前年より6人減少となっている。新登録結核患者中の割合は0.2%となっている。30歳から69歳の年齢階級別新登録結核患者中割合は0.4～0.8%となっている。

表13-3. 年次別 医療従事者の新登録結核患者数（その他）

（（ ）内は新登録に占める割合）

	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
総数	280 (1.7)	225 (1.4)	221 (1.5)	223 (1.8)	212 (1.8)
15～19歳	3 (2.0)	3 (1.9)	1 (0.7)	1 (1.3)	2 (2.0)
20～29歳	39 (3.2)	30 (2.4)	33 (2.8)	38 (3.7)	47 (5.1)
30～39歳	64 (6.5)	57 (6.4)	37 (4.8)	51 (7.4)	38 (6.4)
40～49歳	66 (5.7)	38 (3.7)	62 (6.3)	42 (5.7)	44 (6.9)
50～59歳	61 (4.8)	52 (4.5)	50 (4.7)	46 (5.0)	35 (4.2)
60～69歳	34 (1.7)	38 (2.2)	30 (2.0)	34 (2.7)	33 (3.1)
70～79歳	11 (0.3)	7 (0.2)	7 (0.2)	10 (0.4)	11 (0.5)
80歳以上	2 (0.0)	0 (0.0)	1 (0.0)	1 (0.0)	2 (0.0)

（注）その他：理学療法士、作業療法士、検査技師、放射線技師等および介護職等、看護師・保健師・医師以外で医療機関に勤務する結核感染リスクが高いと考えられる者。

2021年の新登録結核患者のうち、理学療法士、作業療法士、検査技師、放射線技師など、看護師・保健師・医師以外の者で医療機関に勤務する者の登録患者数は212人で昨年の223人から11人の減少となり、新登録結核患者のうちの割合は1.8%となっている。年齢階級別では、20～29歳が最も多く47人となっており、同年齢階級新登録結核患者の5.1%となっている。

表14-1. 年次別 無職臨時日雇等の新登録結核患者数

() 内は新登録に占める割合)

	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
合 計	878 (18.9)	869 (20.0)	762 (19.2)	673 (19.9)	600 (19.9)
20~24歳	44 (7.2)	52 (8.0)	50 (8.1)	51 (10.1)	56 (12.5)
25~29歳	89 (14.3)	73 (11.8)	60 (11.0)	75 (14.4)	65 (13.5)
30~34歳	90 (17.8)	79 (17.2)	59 (16.0)	62 (17.2)	50 (15.9)
35~39歳	86 (17.8)	89 (20.9)	85 (21.4)	73 (22.4)	60 (21.3)
40~44歳	105 (20.0)	80 (18.5)	78 (17.8)	73 (22.2)	59 (21.5)
45~49歳	141 (22.2)	142 (23.6)	129 (23.6)	89 (21.6)	72 (19.7)
50~54歳	148 (24.2)	153 (27.5)	134 (24.5)	114 (24.6)	126 (28.2)
55~59歳	175 (26.7)	201 (33.9)	167 (32.9)	136 (29.6)	112 (28.4)

(注) 無職臨時日雇等：接客業、医療従事者、他の常用勤労者・自営業等、家事従事者、学生、その他不明を除く。合計は20歳～59歳の計。

表14-2. 年次別 無職臨時日雇等の新登録結核患者数(男性、再掲)

() 内は新登録に占める割合)

	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
合 計	507 (18.3)	485 (18.6)	422 (17.7)	334 (17.3)	306 (18.2)
20~24歳	29 (8.5)	23 (6.2)	26 (6.8)	12 (4.8)	25 (10.6)
25~29歳	44 (13.2)	35 (10.0)	34 (11.2)	42 (14.3)	30 (11.5)
30~34歳	35 (13.6)	31 (13.1)	24 (11.9)	29 (15.5)	15 (9.7)
35~39歳	31 (12.1)	39 (17.0)	36 (16.8)	29 (19.0)	19 (13.9)
40~44歳	53 (17.4)	43 (15.9)	35 (13.7)	27 (15.2)	22 (16.1)
45~49歳	91 (22.5)	83 (22.6)	74 (23.3)	48 (18.4)	38 (17.5)
50~54歳	111 (25.2)	94 (25.1)	86 (23.4)	58 (19.9)	76 (28.0)
55~59歳	113 (25.9)	137 (34.1)	107 (31.6)	89 (28.4)	81 (29.6)

(注) 無職臨時日雇等：接客業、医療従事者、他の常用勤労者・自営業等、家事従事者、学生、その他不明を除く。合計は20歳～59歳の計。

2021年の新登録結核患者のうち、登録時の年齢が20～59歳であり、登録時の職業が無職臨時日雇等であった者は600人で、前年の673人から73人減少している。新登録結核患者のうちの割合は19.9%で前年と同じとなっている。年齢階級別の患者数は、50～54歳が最も多い126人で、同年齢階級の28.2%となっている。また、男性の患者に占める無職臨時日雇等の者の割合は55～59歳が最も大きく29.6%となっており、前年から1.2ポイント増加となっている。

表15-1. 前年(2020年)新登録結核患者の治療成績

	総数	治療成功 (%)	死亡 (%)	失敗 (%)	脱落・中断 (%)	転出 (%)	治療中 (%)	不明 (%)
総数	12,641	8,240 (65.2)	3,022 (23.9)	14 (0.1)	222 (1.8)	286 (2.3)	829 (6.6)	28 (0.2)
0～9歳	34	27 (79.4)	0 (0.0)	2 (5.9)	0 (0.0)	2 (5.9)	3 (8.8)	0 (0.0)
10～19歳	91	83 (91.2)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	4 (4.4)	4 (4.4)	0 (0.0)
20～29歳	1,021	791 (77.5)	1 (0.1)	0 (0.0)	17 (1.7)	105 (10.3)	101 (9.9)	6 (0.6)
30～39歳	684	568 (83.0)	2 (0.3)	0 (0.0)	10 (1.5)	39 (5.7)	63 (9.2)	2 (0.3)
40～49歳	735	637 (86.7)	16 (2.2)	1 (0.1)	11 (1.5)	23 (3.1)	45 (6.1)	2 (0.3)
50～59歳	917	760 (82.9)	47 (5.1)	1 (0.1)	21 (2.3)	18 (2.0)	67 (7.3)	3 (0.3)
60～69歳	1,259	985 (78.2)	150 (11.9)	0 (0.0)	26 (2.1)	16 (1.3)	79 (6.3)	3 (0.2)
70～79歳	2,525	1,784 (70.7)	509 (20.2)	2 (0.1)	52 (2.1)	20 (0.8)	152 (6.0)	6 (0.2)
80～89歳	3,649	1,968 (53.9)	1,367 (37.5)	4 (0.1)	58 (1.6)	38 (1.0)	210 (5.8)	4 (0.1)
90歳以上	1,726	637 (36.9)	930 (53.9)	4 (0.2)	27 (1.6)	21 (1.2)	105 (6.1)	2 (0.1)

2020年の新登録結核患者の2021年末での治療成績は、治療成功が65.2%、死亡23.9%、失敗0.1%、脱落・中断1.8%、転出2.3%、治療中6.6%、不明0.2%となっている。60歳以上から年齢階級の上昇にともなって死亡割合が増加し、60～69歳で11.9%、70～79歳で20.2%、80～89歳で37.5%、90歳以上で53.9%となっている。死亡の影響が少ない59歳以下の年齢階級の治療成功割合は77.5%～91.2%となっている。脱落・中断は50～59歳で最も高く2.3%となっている。

表15-2. (再掲)前年(2020年)新登録再治療結核患者の治療成績

	総数	治療成功 (%)	死亡 (%)	失敗 (%)	脱落・中断 (%)	転出 (%)	治療中 (%)	不明 (%)
総数	551	384 (69.7)	92 (16.7)	2 (0.4)	11 (2.0)	10 (1.8)	52 (9.4)	0 (0.0)
0～9歳	4	1 (25.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (75.0)	0 (0.0)
10～19歳	5	4 (80.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (20.0)	0 (0.0)
20～29歳	43	32 (74.4)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (4.7)	4 (9.3)	5 (11.6)	0 (0.0)
30～39歳	25	18 (72.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (8.0)	5 (20.0)	0 (0.0)
40～49歳	28	22 (78.6)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (3.6)	1 (3.6)	4 (14.3)	0 (0.0)
50～59歳	46	40 (87.0)	3 (6.5)	1 (2.2)	1 (2.2)	0 (0.0)	1 (2.2)	0 (0.0)
60～69歳	70	51 (72.9)	10 (14.3)	0 (0.0)	2 (2.9)	0 (0.0)	7 (10.0)	0 (0.0)
70～79歳	123	93 (75.6)	16 (13.0)	0 (0.0)	3 (2.4)	1 (0.8)	10 (8.1)	0 (0.0)
80～89歳	152	101 (66.4)	38 (25.0)	1 (0.7)	2 (1.3)	0 (0.0)	10 (6.6)	0 (0.0)
90歳以上	55	22 (40.0)	25 (45.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (3.6)	6 (10.9)	0 (0.0)

2020年の新登録再治療結核患者の2021年末での治療成績は、治療成功が69.7%、死亡16.7%、失敗0.4%、脱落・中断2.0%、転出1.8%、治療中9.4%、不明0.0%となっている。

表15-3. 前年(2020年)新登録潜在性結核感染症(LTBI)治療開始者の治療成績

	総数	治療完了 (%)	死亡 (%)	脱落・中断 (%)	転出 (%)	治療中 (%)	不明 (%)
総数	5,461	4,616 (84.5)	161 (2.9)	377 (6.9)	65 (1.2)	221 (4.0)	21 (0.4)
0～9歳	418	376 (90.0)	1 (0.2)	10 (2.4)	13 (3.1)	18 (4.3)	0 (0.0)
10～19歳	104	94 (90.4)	0 (0.0)	5 (4.8)	0 (0.0)	2 (1.9)	3 (2.9)
20～29歳	499	420 (84.2)	0 (0.0)	22 (4.4)	24 (4.8)	33 (6.6)	0 (0.0)
30～39歳	452	402 (88.9)	0 (0.0)	26 (5.8)	10 (2.2)	13 (2.9)	1 (0.2)
40～49歳	630	565 (89.7)	2 (0.3)	28 (4.4)	4 (0.6)	27 (4.3)	4 (0.6)
50～59歳	746	632 (84.7)	3 (0.4)	72 (9.7)	2 (0.3)	33 (4.4)	4 (0.5)
60～69歳	884	746 (84.4)	19 (2.1)	80 (9.0)	4 (0.5)	33 (3.7)	2 (0.2)
70～79歳	1,018	827 (81.2)	67 (6.6)	84 (8.3)	5 (0.5)	34 (3.3)	1 (0.1)
80～89歳	623	491 (78.8)	54 (8.7)	43 (6.9)	3 (0.5)	27 (4.3)	5 (0.8)
90歳以上	87	63 (72.4)	15 (17.2)	7 (8.0)	0 (0.0)	1 (1.1)	1 (1.1)

2020年の潜在性結核感染症新登録者のうち治療を開始した者の2021年末での治療完了率は84.5%となっている。脱落・中断は6.9%となっているが、中高年齢階級では高く50～59歳では9.7%となっている。

表15-4. 前々年(2019年)新登録結核患者で多剤耐性の者の治療成績

	総数	治療成功 (%)	死亡 (%)	失敗 (%)	脱落・中断 (%)	転出 (%)	治療中 (%)	不明 (%)
総数	49	28 (57.1)	10 (20.4)	0 (0.0)	2 (4.1)	6 (12.2)	1 (2.0)	2 (4.1)

(注) 表15-1～表15-4: 2021年末までの治療成績

2019年の新登録結核患者で多剤耐性結核患者の2021年末での治療成績は、対象49人のうち治療成功57.1%、死亡20.4%、失敗0.0%、脱落・中断4.1%、転出12.2%、治療中2.0%、不明4.1%となっている。

率の算出に使用した人口について

総人口、日本人人口および都道府県・政令市別人口は、「人口推計」（総務省統計局）（<https://www.stat.go.jp/data/jinsui/index.html>）（2021年7月15日に利用）を用いた。